

日進市立竹の山小学校保護者各位

日進市教育委員会 教育長 吉 橋 一 典
日進市立竹の山小学校長 山 田 環

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について（お知らせ）

仲秋の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

見出しの調査は、6年生の児童を対象として、国語・算数・理科について、その学力の一部を「知識」「活用」といった観点から調査したものです。また、児童の学習意欲や生活習慣等についても、質問紙によって調査を行いました。この度、市全体と各学校の傾向をまとめましたので、その概要をお知らせいたします。基礎・基本の一層の定着を図るとともに、調査結果を今後の学習指導に生かしていきたいと考えております。ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

1 日進市全体の結果について

国語、算数、理科ともに「知識に関する問題」（A問題）の方が、「活用に関する問題」（B問題）より平均正答率が高くなっています。また、全国・愛知県の結果より、各教科とも平均正答率が高くなっています。

（1）国語

A問題・B問題ともに、全国・愛知県と比較し、本市の平均正答率は高く、どの領域においても着実に学力が定着しています。特に、「慣用句の意味を理解して自分の表現に用いる」、漢字の「読み書き」の能力に優れており、今後さらに理解を深める工夫をしていきたいと考えています。しかし、「目的や意図に応じて内容の中心を捉え、自分の考えを書く（話す）」「話し手の意図を考えて聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる」ことについて課題がみられます。自分の考えをまとめ、他の意見と比較しながら話し合う活動を充実させ、日々の学習指導を積み重ねていきます。

（2）算数

A問題・B問題ともに、全国・愛知県と比較し、本市の平均正答率は高く、どの領域においても着実に学力が定着しています。特に、「四則演算」「図形に関する量と測定」の能力に優れております。

その一方、「数量の関係」の領域への取組について課題があります。具体的には、「グラフから読み取ることができる内容を適切に判断する」能力です。こうした「数学的な考え方」を伸長させるため、量の概念についての定着を図ることができるような学習指導を進めていきます。

（3）理科

「自然事象についての知識・理解」の項目で正答率が高くなっています。一方、「科学的な思考・表現」についての項目で正答率がやや低くなっております。「実験結果をもとに分析して分かることを記述する」能力を定着させる必要があります。観察や実験を通して調べ、まとめる力を養う学習指導を重視し、取り組んでいきます。

（4）生活面

昨年同様、毎日朝食をとり、規則正しい生活をしている割合が非常に高く、そのような児童は、規範意識、学習意欲、自己肯定感も高い傾向が出ています。地域社会などでボランティア活動した割合がやや低い傾向にありますが、新聞を読んだりニュースを見たりする児童の割合は全国・愛知県と比べて高くなっています。今後、地域社会への興味・関心が高まり、地域行事に進んで参加することを期待します。

2 竹の山小学校の結果について

(1) 国語

A問題（主として知識）、B問題（主として活用）の平均正答率は、ともに全国・県を上回っています。各観点に着目しても、A問題、B問題のすべての観点で平均正答率は全国・県よりも高くなっています。特にA問題は全国平均正答率と比較すると、およそ10%高い結果で、基礎的な知識の定着が見られます。また、A問題、B問題ともに「話すこと・聞くこと」の平均正答率が高く、開校以来、現職教育として取り組んできたスピーチ活動の成果が表れていると言えます。

全体として高い平均正答率でしたが、「書くこと」や記述式の問題の正答率は、他の観点や選択式や短答式の問題と比べるとやや低く、若干の苦手意識が結果に表れています。全体的な定着が見られる知識をどのように活用していくかが、今後の課題として挙げられます。

(2) 算数

A問題（主として知識）、B問題（主として活用）の平均正答率は、ともに全国・県を上回っています。各観点に着目しても、A問題、B問題のすべての観点で平均正答率は全国・県よりも高くなっています。高学年で実施している少人数授業の成果が表れていると言えます。

課題点はB問題に顕著に表れていました。記述式の問題は、観点にかかわらず平均正答率が低い状況です。その中でも「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する」問題や「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する」問題では、その傾向が顕著に表れていました。A問題に見られる定着した知識を活用して、記述の形で考えを述べる力を付けていくことが課題です。

(3) 理科

平均正答率を全国・県と比較すると、上回っています。「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」では、「知識」の方が平均正答率は高い結果となっています。また、特に「自然事象についての知識・理解」の平均正答率が高く、基礎・基本が定着していることがわかります。

しかし、記述式の「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」問題に関しては、平均正答率が全国・県よりも低くなっています。観点別では「科学的な思考・表現」が、平均正答率では最も低くなっています。定着した「知識・理解」の力をいかに活用し、「科学的な思考・表現」に結び付けていくかが課題になります。

(4) 生活面

- 全体的には規則正しい生活習慣や地域・家庭との良好な関係が見られ、規範意識や学習意欲が高く、自分の長所を見つけられるなどの自己肯定感が高い傾向にありました。
- 学習面では宿題に対する取り組み姿勢は意識が高く、算数・理科に対しても「好き」「大切だ」という気持ちや「社会に出たときに役立つ」という意識を、多くの児童が感じています。また毎日2時間以上読書をしている割合も高く、本校の充実した図書館と委員会による読書活動が大いに生かされた結果とも言えます。
- 放課後や週末については、家族と過ごす、習い事やスポーツクラブに参加し過ごしている傾向が強く表れています。地域行事やボランティア活動への参加意欲も高く、地域社会への関心が非常に高いことがうかがえます。
- 将来の夢や目標をもてていない児童もあり、生活の中で充実感を得させ、自信をもたせる取組が継続的に必要であることがわかります。

※ ご不明な点がございましたら、教務主任 谷村秀史までお問い合わせください。

(0561-75-5330)